

## 平成26年度 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す 学校像	情報化・国際化・高齢化等激しく変化する社会にあって、それらに柔軟に対応できる力を育むと同時に、豊かな人間的資質を培い、自主自律の態度を養い、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>県内初の単位制高校に改編した平成10年以降、「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを活かし、主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承し、「活力ある進学校」「個に応じた学習指導」「自主独立の人づくり」を中期的目標として、教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。</p> <p>その結果、国公立大学に毎年100名前後の現役合格者を輩出するようになり、今年度は現役合格者は117名、私立大現役合格者は812名と過去最高記録を大幅に更新する成果を上げることができた。</p> <p>これは、生徒一人ひとりの進学希望実現に向け、単位制の特長を活かして、きめ細かな教科指導・進学指導に取り組んできた結果と考えられる。単位制改編後の飛躍的な進学実績の躍進を評価するとともに、今後も単位制の特性を活かした様々な取組みを積極的に推し進め、生徒一人ひとりの進学希望を実現していきたい。</p> <p>また、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、さらに豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぎ、生徒の自立に向け、取り組んでいかねばならない。</p>	<p>教科指導 ー授業は真剣勝負ー</p>	<p>① 単位制の特長を生かし、生徒のニーズに応じた選択科目を設定し、少人数講座・チームティーチングなどに積極的に取り組む。</p> <p>② 基礎・基本の定着を重視するとともに、さらに多様な大学入試に対応できるよう、応用力を伸ばす授業を実践する。</p> <p>③ 教員一人一人の授業のレベルアップを図るために、公開授業・研究協議及び校外での研修結果の報告会等、授業に関する研修体制を充実させる。</p>	3
	<p>特別活動 ー部活動や生徒会活動の意義ー</p>	<p>④ 「生きる力」を培う一助となるよう、部活動を通して、感性を高め、心身を鍛錬するとともに、友人との健全かつ豊かな人間関係を構築させる。</p> <p>⑤ 学校行事を通して、達成感・成就感を体得させるとともに、生徒間、各HR・年次間及び学校全体の連帯感を培う。</p> <p>⑥ 生徒会活動・委員会活動・HR活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>⑦ 国際交流事業を通じて、生徒の視野の拡大、国際理解教育の推進に努める。</p>	3
	<p>生徒指導 ー社会的責任を自覚し行動できる 生徒の育成ー</p>	<p>⑧ 全職員の共通理解の下に、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成及び向上を促す。</p> <p>⑨ 個別面談・教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する体制を整えるとともに、関係機関との連携強化を図る。</p> <p>⑩ 登下校指導や危険箇所の情報提供を確実に実施するとともに、不審者、ネット犯罪等を対象とする安全教育を推進し、生徒の危機察知能力及び危機回避能力を育成し、事故の未然防止に努める。</p> <p>⑪ ホームルーム活動や学校行事を通して、自他の生命を尊重する精神を養う。</p>	3
	<p>進路指導 ー生徒一人ひとりの特性を生かした 指導ー</p>	<p>⑫ 生徒が進学を希望する国公立大学・私立大学の説明会等を通して、生徒にとって有益な情報を積極的に収集し、生徒に提供する。</p> <p>⑬ 「特色ある学校づくり支援事業」の一環としてさまざまな機関との連携を図るとともに、個々の生徒の特性を生かすキャリア教育の充実に努め、進路実現に向け多面的な大学入試への対応を促進する。</p> <p>⑭ 生徒が必要とする参考図書等を精選して購入し、生徒による資料の活用を促進する。</p>	3
<p>保護者及び地域社会との連携 ー積極的な情報発信ー</p>	<p>⑮ 教育活動や学校行事等について細かく保護者に伝達し、常に保護者と教職員が手を携えて生徒の教育にあたる体制を継続していく。</p> <p>⑯ HPや各種印刷物等を通じて、保護者・地域社会に対し、教育目標・教育活動等の情報をさらに積極的に発信していく。</p>	4	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	学力の増進と生徒の家庭学習の充実を図る。	生徒が目的意識を持って自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成する指導の工夫改善を図る。①	4	3	週末課題の効果的なあり方を検討するとともに観点別学習評価の充実を図る。	
		各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携し、家庭での学習を確立させる。①	4			
	学習指導法の改善に努める。	生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・TT授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。①②③	3			
	観点別学習指導および観点別学習状況評価の研究に努める。	観点別学習指導の趣旨を生かした、豊かな内容ときめの細かな学習指導の研究に努め、観点別学習状況の評価について研究を進める。	2			
教 科	国語	基礎学力の定着と発展的学習のための指導の充実を図る。	科目担当者の連携を密にし、授業の工夫と改善を図る。③	3	3	科目担当者の連携をより密にし、効果的な教材の選択・指導法を検討する。
		自ら学ぶ力の強化を図る。	生徒に適した教科書教材を精選する。また、次年度や受験を視野に新しい教材を検討する。②	4		
			家庭学習を習慣化するための課題や小テストを工夫する。②	3		
			自ら学ぶ力を強化するための指導を工夫するとともに問題集や参考書を精選する。①②③	3		
	地歴・公民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材の開発やIT機器の利用などを通じて、授業内容の充実を図る。②	3	3	科目担当者間で授業内容や指導法について情報交換をさらに密に行い、具体的指導法の確立を図る。
		多面的なもの見方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして活発な情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取組などを通し、社会的・歴史的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養する。①②③	3		
	数 学	学力の向上を目指した指導を充実する。	課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。②	3	3	教科内の連携を図り指導法の共有化を図る。各層の生徒の引き上げ方法を検討する。
			科目担当者の連携を密にし、授業の進め方や学力の定着度合の分析を行い、課題を明確にし指導に生かす。③	4		
		個に応じた授業の充実を図る。	TTをはじめ、問題演習時間を増やして主体的に取り組むことのできる授業を実践する。①	3		
	理 科	日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。	実験や実習を効果的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めると共に科学的な思考力の育成を図る。①②	3	3	実験・実習時間の確保及び新教育課程のもとでの適切な授業の進め方(進度)について、科目担当者間で検討する。
		基礎学力の充実を図り、センター試験において平均点以上の得点を目指して指導する。	教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指して問題演習・課題学習を行う。①②	3		
	保 健・体育	授業内容の充実を図る。(体育)	生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。①	3	3	生涯スポーツにつながる継続的に運動に親しむ態度と能力を育成する。
体育授業における事故防止に努める。(体育)		準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。①	3			
授業内容の充実を図る。(保健)		視聴覚教材を積極的に活用し、実践的な能力を育てる。①	3			
芸 術	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	可能な限り個々に応じた丁寧な指導を目指す。①②⑤	3	3	芸術の表現活動において、自ら創意工夫し学習する態度を育成する。	
		各種コンクールへの出場・出展を促すとともに、入賞できるような効果的指導を目指す。①⑤	3			
	生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、芸術を愛好する心情を養う。	さまざまなジャンルの音楽会・展覧会等を紹介する。①②⑤	3			
		新聞記事等から豊富な話題を提供する。①	3			
	展示コーナーの活用を図る。①⑤	3				

家庭	授業内容の充実を図る。	教科書の内容を精選し、最新の情報を取り入れながら教材や指導方法の工夫を図る。	②	3	4	実験・実習・調べ学習など、共同して取り組む中で将来の暮らしを探っていけるように授業を検討し実施する。
	自立に必要な生活技術の向上を図る。	実験実習の回数をできるだけ多くし、生徒の実態や能力にあった内容を検討する。	①	4		
英語	英語の学力を向上させる。	教科書の予習復習を中心とした学習法を徹底させる。	②	3	3	年次内・年次間の情報交換を密に行い、さらなる学力の増進を図る。新教育課程に対応した、より効果的な指導方法を検討・実施する。
		サイドリーダー、週末課題、長文問題集、文法問題集、単語集等、副教材を吟味し質的量的充実を図る。	②	4		
	授業研究の徹底を図る。	定期考査結果、模試結果をその都度分析し活用する。	②	4		
		定期的に授業研究を実施することによって、指導技術研鑽を図る。	③	3		
情報	生徒の情報活用能力の育成を図る。	学校行事やCES（総合的な学習の時間）と連携した学習課題を題材とし、情報の収集・処理・発信などの実習を行う。	②③	4	3	27年度は1・2年次での開講となるため、複数教員での担当となる。教員間での連携を図り、授業計画や教材開発に取り組みたい。特に1年次は年次と連携をとって授業計画を作りたい。
		情報モラルやセキュリティなど、情報機器や情報通信ネットワークを活用していく上で配慮すべきことを考えさせる。	②⑩	3		
	教員の授業実践力の向上を図る。	他教科の授業見学を行い連携を探ると共に、授業研究を行う。	③	2		
		校外の研修を通して、優れた実践事例等に学ぶことに努める。	③	3		
教務	授業時間の確保に努め、授業技術のレベルアップを図る。	授業交換や填補を確実にを行うとともに、行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。	①	3	4	授業研究週間に教科の研究授業をお願いするなど有効活用を工夫し公開授業の内容の充実をはかる。
	単位制の特長を生かした教育課程編成の工夫を行う。	授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施する。また、授業評価等を取り入れながら、授業の質の向上と優れた技術の共有化を図り、教科内、年次間の連携や組織的な指導体制の構築に努める。	③	3		
	地域社会に対して本校教育活動等の情報発信等に努める。	生徒の進路実現のための効果的な教育課程編成や履修パターン等の内容を検討し、新教育課程入試に対応できるよう改善を図る。	①②	4		
特別活動	HR・生徒会活動のさらなる活発化を図る。	ホームページやインフォメーション（学校案内）等の内容を充実させ、また中学生対象のEishinオープンハイスクール、学校公開等を通して、積極的に本校の情報提供やPRを行う。	⑩	4	3	学校行事等において、生徒が主体的に活動できた。課題は、女子の部活動への参加率を上げることである。
	部活動への積極的参加を図る。	学校行事等において、生徒が自主的に考えて行動するよう助言指導をする。	⑥⑦	3		
生徒指導	生徒の規範意識を高めるとともに、基本的な生活習慣の育成に努める。	全職員の共通認識のもと、頭髪・服装指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。	⑧⑨	3	3	交通安全対策及び不審者対策を課題としてとらえ、指導の充実を図る。
		登下校指導やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。また、登下校指導への保護者の参加・協力を促進する。	⑧⑩⑪	3		
	自他の生命を尊重する精神を養うとともに、豊かな心を育成する。	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、情報提供を実施し、事故の未然防止に努める。	⑩	3		
		HRや「道徳」、交通安全講話・いじめ防止教室・薬物乱用防止教室等の学校行事をとおして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。	⑩⑪	3		
		いじめの問題の克服に向けて、計画的に未然防止・早期発見につとめる。	⑨⑪			

進路指導	生徒一人一人の希望進路実現を学校全体で支援する。	「進路手帳」「進路の足跡」「進路便り」などの発行、及び受験関係図書の有効な活用を図るとともに、面接週間を充実させる。 ⑫⑭	4	3	進路情報の共有化を図るとともに、学校全体で学力向上を考える体制作りを構築する。
	国公立、及び難関私立大への進学率の向上を図る。	Fine-system、Kei-naviなどによる成績分析、進路検討会、進路講演会などを行うとともに、「e-TOP推進室」を中心に、難関大学への指導方法の助言、低年次からの生徒への意識付けを、各年次・教科に対して行う。 ⑫⑬	3		
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実に行う。 ⑨	3	3	次年度は従来の活動に加え、避難訓練（防火）の実施など、より一層地域と連携した防災教育を行う。
	生徒の学校生活での福利厚生及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。 ⑨	3		
	防災意識を高め非常時に適切な行動がとれるようにする。	日本スポーツ振興センターおよび奨学生の事務取扱を円滑に行う。 ⑩	3		
		パン・牛乳販売の連絡を円滑に行う。 ⑨	3		
		校内の安全点検や清掃の徹底、及び校内外の環境美化運動を通して生徒の美化意識を高揚させる。 ⑩	3		
緊急避難体制を確立させ、地震を想定した避難訓練を実施する。 ⑩	3				
図書館	蔵書資料の充実を図る。	各教科に購入希望図書の調査をする。生徒からの希望図書については、図書館部で検討したうえで、積極的に購入していく。また、新刊情報の収集に努めるなど、蔵書資料の充実を図る。 ⑭	3	3	特集コーナーなど図書館で行ういろいろな企画を、図書委員を使ってもっと積極的に宣伝していく。
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	読書や学習に必要な書籍の情報を提供するとともに、読書スペースや学習室として利用しやすい環境を整える。 ⑬⑭⑯	3		
渉外	会議・委員会を円滑に進める。	係分担を明確にし、会議が円滑に進むよう十分な事前準備をする。 ⑮	4	4	講座内容の充実と、さらなる円滑な会議運営に努める。
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために各種委員会運営を円滑に行う。 ⑮⑯	4		
教育相談	カウンセリングを実践する。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。 ⑨	3	3	各年次との連携をより密に迅速に行う。
		生徒・保護者・職員に対する、スクールカウンセラーを活用した相談活動を行う。 ⑨	4		
	特別支援教育の充実を図る。	特別支援を必要とする生徒に対してより適切な指導を行う。 ⑨	3		
		ニーズの度合いに応じてケース会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。 ⑨	3		
1年次	基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を養う。	遅刻指導や提出物の期限を守らせる指導を通して、時間厳守の精神を養う。 ⑧	3	3	①文系・理系コースに応じた課題内容を検討する。 ②上位層のモチベーションを持続させる工夫が必要。 ③中・下位層の底上げが必要。 ④主体的に学習させる工夫が必要。
		服装容儀指導、登校指導、挨拶の励行などを通して、規範意識の向上を図る。 ⑧⑩	3		
		家庭との連絡を密にし、生徒が抱える問題の早期発見や問題行動の防止に努める。 ⑮	3		
	学習習慣を確立させ、基礎学力の充実をはかる。	予習・復習を徹底させることで、授業を大切に、授業に真剣に参加する姿勢を養う。 ②	3		
		週末課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。 ②	3		
		校内の考査や校外模試の結果を分析して、教科指導や進路指導に反映させる。 ③	3		
	自己理解をうながすことで、進路に対する意識を高め、将来を見据えた進路選択ができるようにする。	面談や「進路手帳」の提出を通して、自らの現状を確認させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。 ⑨	3		
		大学・研究所訪問や職業人講話等の進路学習への参加を通して、自己理解を深め、進路意識を向上させる。 ⑫⑬	3		
		年次通信、進路説明会、保護者面談などによって保護者との連携を密にし、進路情報の共有を図る。 ⑫⑬⑭⑮	3		
	特別活動や道徳を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、思いやりの心を養う。	部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。 ④⑤⑥	3		
CESタイム（道徳）を通して、他者の生き方に触れ、自己を見つめることで、視野を広げ、思いやりと奉仕の精神を育成する。 ⑪		3			

2年次	基本的な生活習慣と高校生に相応しい規範意識を確立させる。	早朝自主学习に積極的に参加させ、早朝登校を促し、基本的な生活習慣の確立を図る。	⑧	3	3	①希望進路実現のための、個々に応じた進路指導・学習指導の充実。 ②成績中下位層の底上げ。 ③生徒の自主性を育成するための方策。
		課題や提出物の期限を守らせる指導を通して、期限厳守の意識を養う。	⑧	3		
		服装容儀の指導、挨拶の励行などを通して、規範意識の向上を図る。	⑧	3		
		家庭との密な連携を通して、生徒の問題行動を防止し、早期対応に努める。	⑮	3		
	授業の充実と生徒の学習意欲を高める工夫を通じて、基礎学力のさらなる定着をはかる。	予習・復習を徹底させ、小テストや追試を計画的に実施することで、授業を大切に、授業に真剣に参加する姿勢を養う。	②	3		
		面談や「進路手帳」の提出を通して、自らの現状を把握させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。	⑨	3		
		週末課題やゼミの計画的な実施、サポートティーチャーの導入を通じて、課外学習を促進し、基礎学力の定着を図る。	②⑬	3		
	大学研究、および学部・学科研究を深めることで、進路意識を高め、将来を見据えた進路設計ができるようにする。	大学模擬講義や職業人講話等の進路学習への参加、およびオープンキャンパスへの参加と報告書の作成を通して、自己理解を深め、進路意識を向上させる。	⑫⑬	3		
		小論文学習や模擬志望理由書の作成を通じて、自己分析力を向上させ、進路意識の高揚をはかる。	⑫	3		
		年次通信の発行、進路説明会の実施、保護者面談などによって保護者との連携を密にし、家庭における進路意識の向上と、情報の共有を図る。	⑫⑬⑭⑮	3		
特別活動や総合学習の時間等を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。	④⑤⑥	3			
	実り多い修学旅行とするために事前・事後学習を充実させ、また修学旅行を通して集団行動のなかでの協調性や連帯感を醸成する。	⑤⑪⑭	3			
3年次	学力の向上と伸長を目指す指導と、個々の生徒にあわせた進路指導体制の充実を図る。	授業やゼミの充実を図り、上級学校進学に対応できる学力を養成する。	①②③	3	3	①新課程に対応するための授業展開の工夫と、授業進度に対する配慮。 ②成績上位層の育成と、中・下位層の学力向上。 ③推薦入試指導、個別試験指導に対応するための、教員個々の指導力向上。
		年次内で生徒の進路情報を共有して生徒理解に努め、個別面談等を通して個に応じた進路情報を提供する。	⑫⑬⑭	3		
		様々な入試制度を研究して、生徒に多様な進路実現の場を提供する。	⑫⑬⑭	3		
		保護者対象の進路研修会を実施し、保護者への進路情報の提供と生徒情報の共有に努める。	⑮⑯	3		
	高校3年間の総括として、全生徒が充実した学校生活を送ることができるように十分な支援を行う。	最高年次としての誇りと責任感を意識させて、学校行事への積極的参加を促す。また、特別活動や部活動等への参加を通じて、協調精神とリーダーシップを育成する。	④⑤⑥	3		
		高校生らしい服装・容儀の指導を徹底し、自立を促す指導を行う。	⑧	3		
		個別面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。	⑨⑮	3		

評価基準：「4」大変よく出来ている 「3」よく出来ている 「2」やや不十分 「1」不十分 「0」わからない